

YAMATO Nature Circle



2025年7月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.78

——絵と文 群馬直美——

華やかなマジシャン《ネコヤナギの雄花》

9年前、雪のように白い毛むくじゃらをたくさんつけたネコヤナギの枝を描いた。
その時、この毛むくじゃらが花のつぼみであると知り、驚いた。
アトリエで描いていると、つぼみが動いている。
地球の中心に向かって、それぞれ真っ直ぐになるように。
3週間後。——突然つぼみは、様々な方向を向き、開花した。
それは、あらゆる束縛から解放された人たちが、自由奔放に踊っているような花だった。
背筋を伸ばして立ち尽くすストイックなつぼみの頃とのギャップに、驚いた。
びっくり尽くしのネコヤナギ。その花をずっと描きたいと思い、9年も経ってしまった。
ネコヤナギには、雄の木と雌の木があるという。雄の木には雄花が、雌の木には雌花が咲く。
雄花にはオシベが、雌花にはメシベが、
それぞれ毛むくじゃらの中にたくさん隠れている。
雄花に隠れていたオシベの先端が赤くなると、ひょろひょろと伸びて、
真っ赤なオシベは黄色い花粉を出すという。
なんだか華やかなマジシャンのような花だ。
この春、私が描いたヤマトビオトープ園のネコヤナギの花は、
シベの先端が赤く染まった雄花だった。
こうなってくると、雄花より小振りで地味、という雌花も描きたい。
ビオトープ園のどこかに、雌の木も居るのかな？
その答えは、春になればわかる。開花した花が教えてくれる。

《表紙の絵》ネコヤナギの雄花

「開花すると猫背になる?!」

・ヤマトビオトープ園にて 2025.3.11採集
(作品の完成日は2025年5月25日)

・紙(ファブリアーノエキストラホワイト極細目)/テンペラ

・size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>